



滋賀医科大学附属病院耳鼻咽喉科における 口腔癌治療の現状

滋賀医科大学耳鼻咽喉科
清水 猛史



本日の内容

- ・大学・医局紹介
- ・滋賀医科大学耳鼻咽喉科における口腔癌診療
- ・再建手術の実際
- ・口腔疾患と口腔癌

滋賀医科大学耳鼻咽喉科

スタッフ：常勤医師 16名、非常勤医師 5名、言語聴覚士 2名
(耳鼻咽喉科専門医 15名、癌治療認定医 3名,
頭頸部癌指導医 1名・専門医 2名)

病床数：27床

新患患者数：1400名（紹介率 85%）・年

手術件数：500件・年

入院患者数：640名・年

関連病院（常勤）：

市立長浜病院、長浜赤十字病院、彦根市民病院
日野記念病院、公立甲賀病院、草津総合病院
JCHO滋賀病院、丹後中央病院

関連病院（非常勤）：

近江草津病院、公立高島病院、豊郷病院
神崎中央病院、湖東記念病院、生田病院
第一琵琶湖学園、蘇生会総合病院
宇治德州会病院

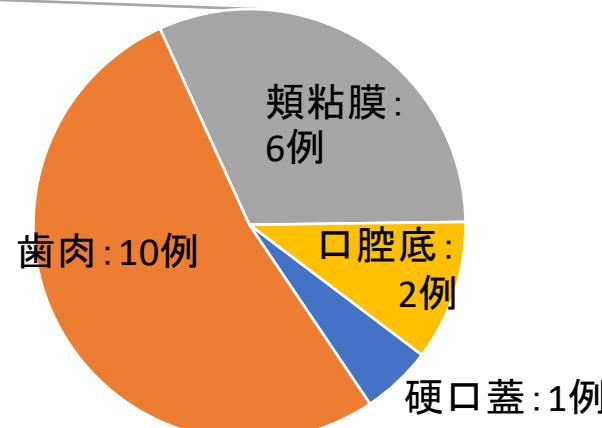
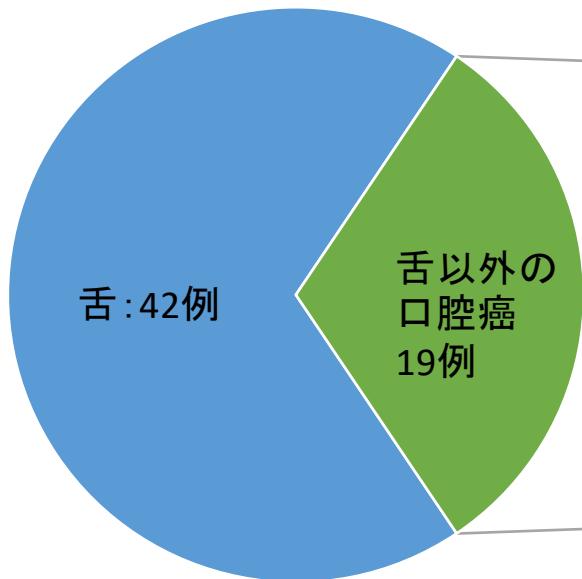


滋賀医科大学耳鼻咽喉科における口腔癌診療

- ・2010年10月から2018年12月までに、滋賀医科大学耳鼻咽喉科において、根治治療を行った口腔癌患者61名

1. 原発部位

(n:61)

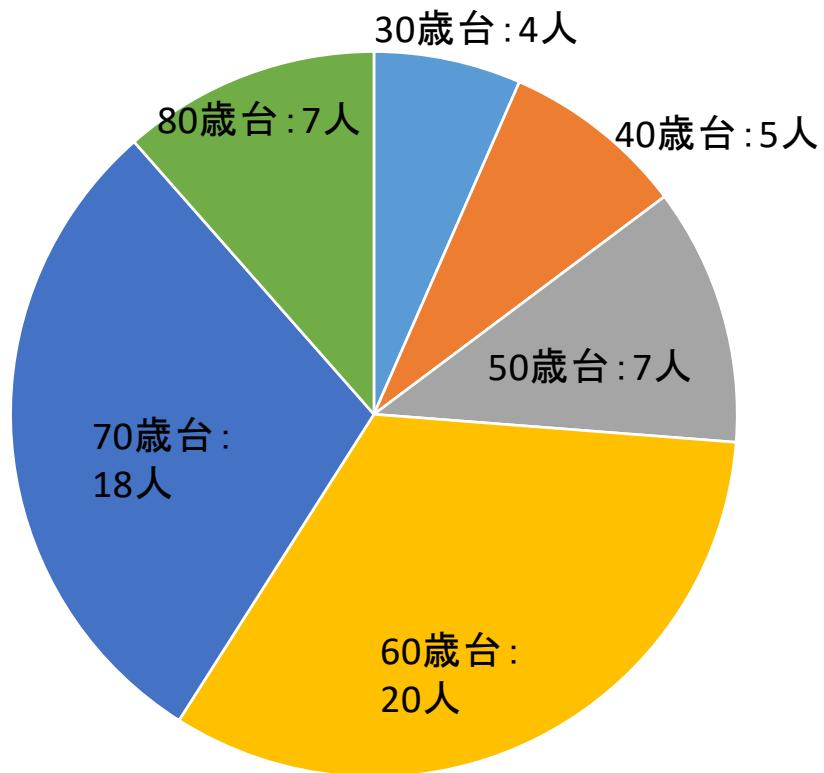


- ・舌癌が最も多く口腔癌の3分の2を占めた。次いで、歯肉癌、頬粘膜癌の順。

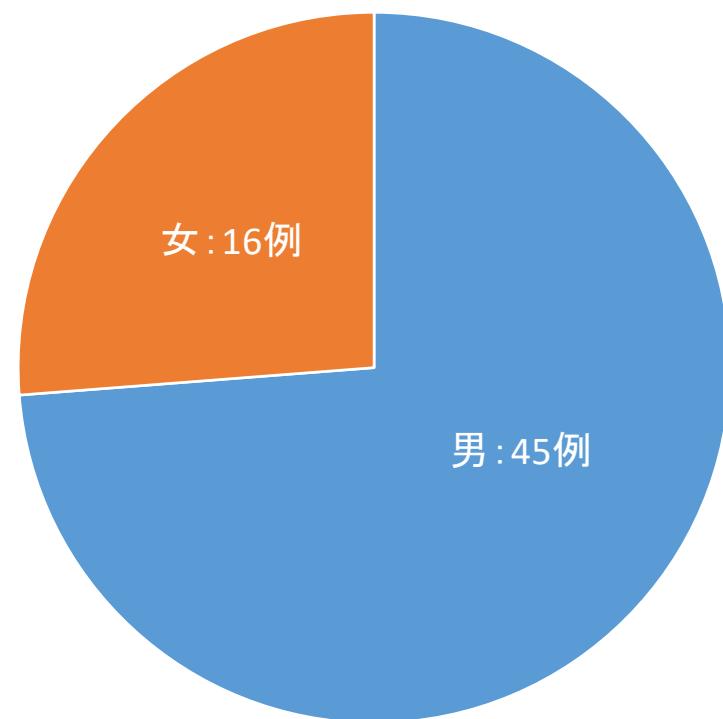
2. 年齢・性別

(n:61)

年齢



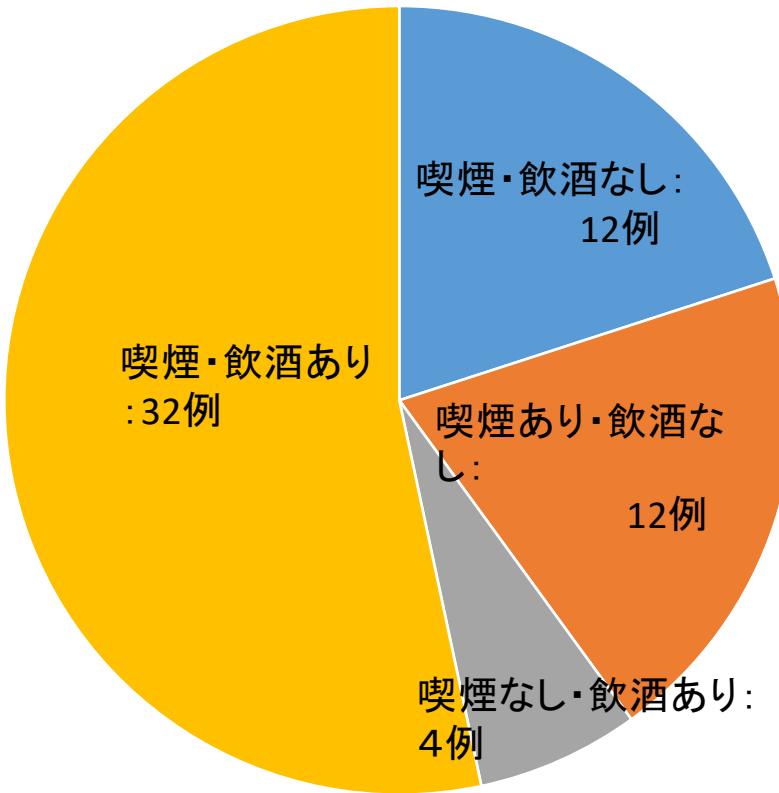
性別



・30－40代の若年者にも見られる。男性に多い。

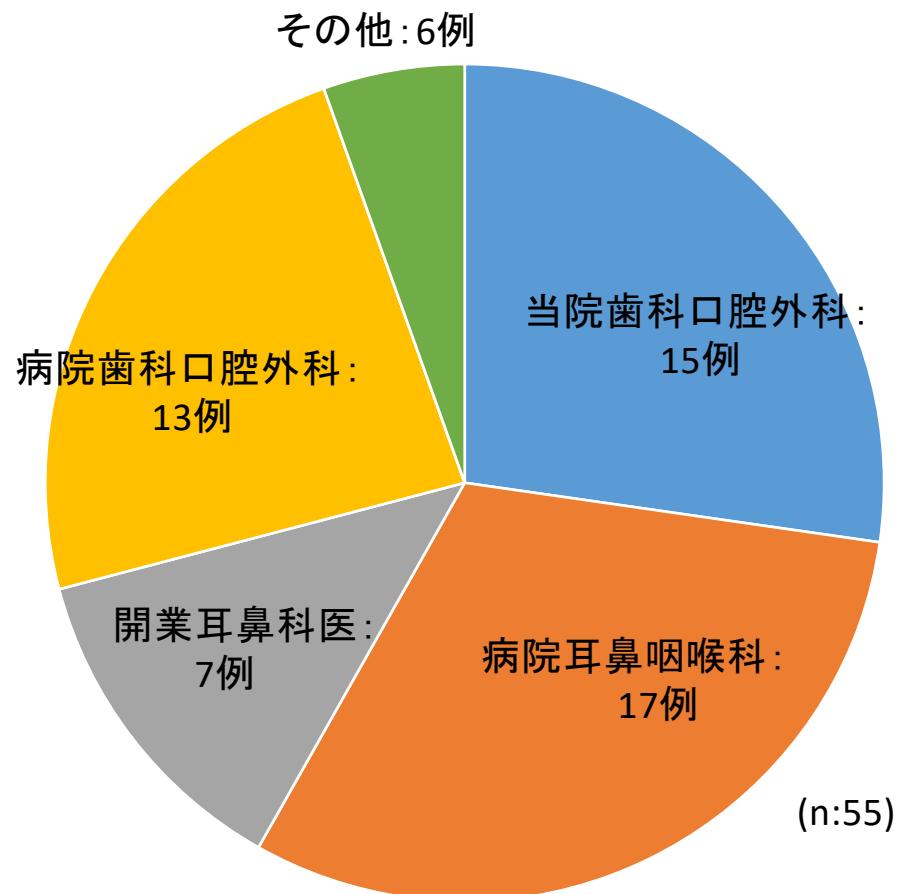
3. 喫煙・飲酒状況

(n:61)



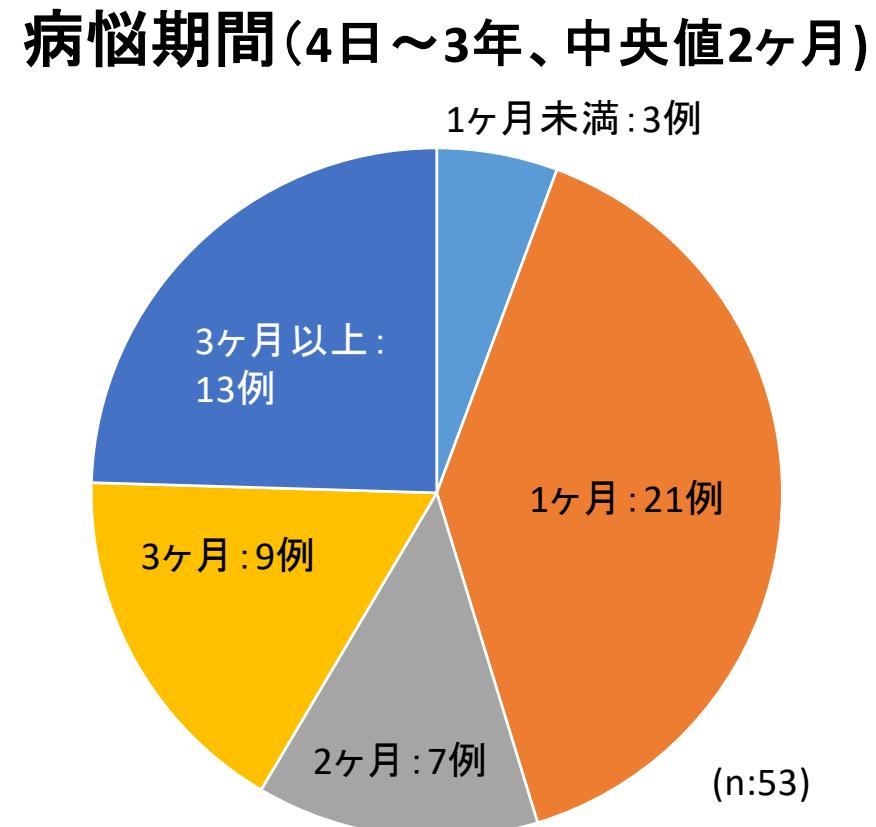
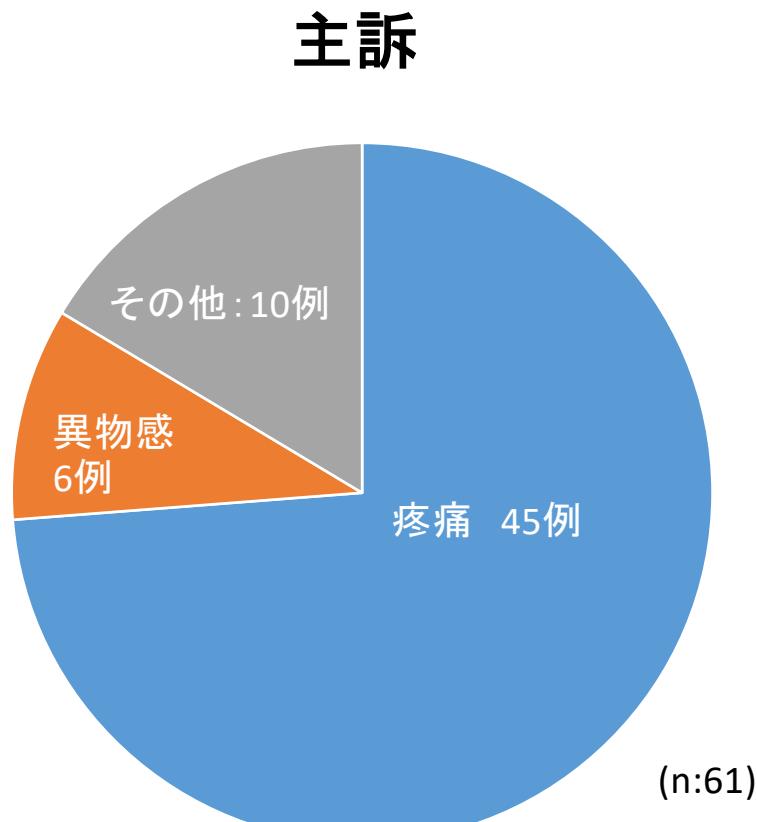
・ほとんどの患者さんに飲酒・喫煙歴がある。

4. 紹介元の施設



- ・半数以上が歯科口腔外科からの紹介。
- ・開業歯科医からの紹介はない。

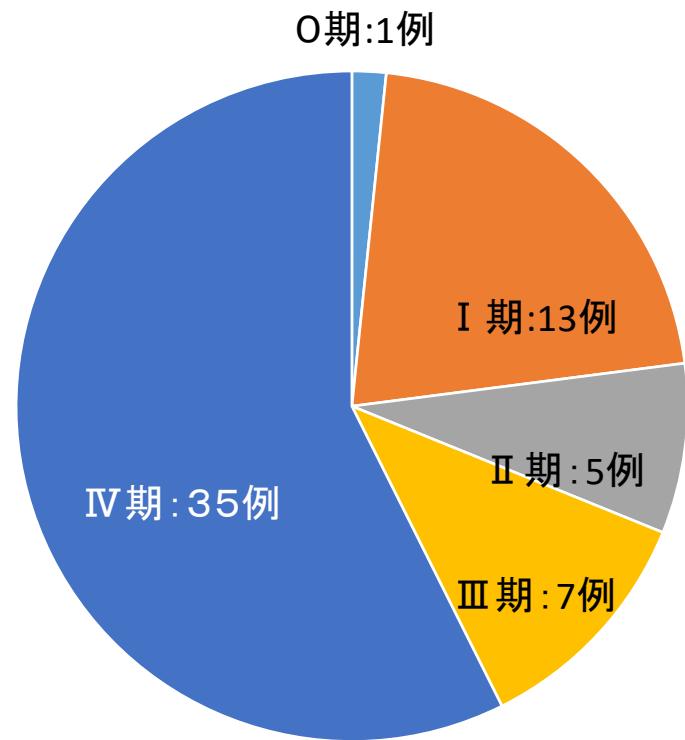
5. 主訴・病歴期間



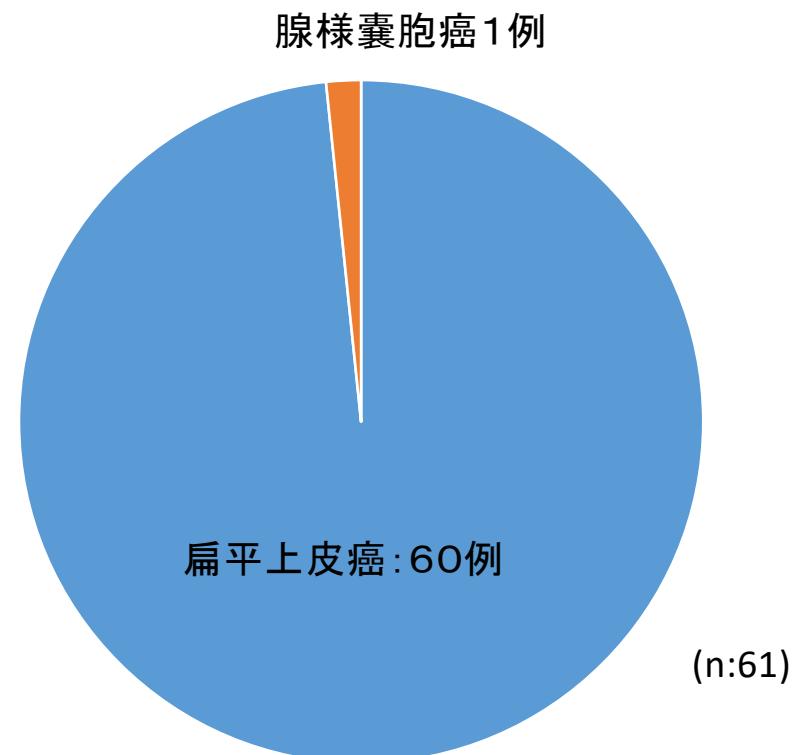
- ・ 4分の3の患者さんの主訴が疼痛。
- ・ 3分の1以上の患者さんが、3か月以上経過してから受診。

6. 臨床病期・病理組織

臨床病期



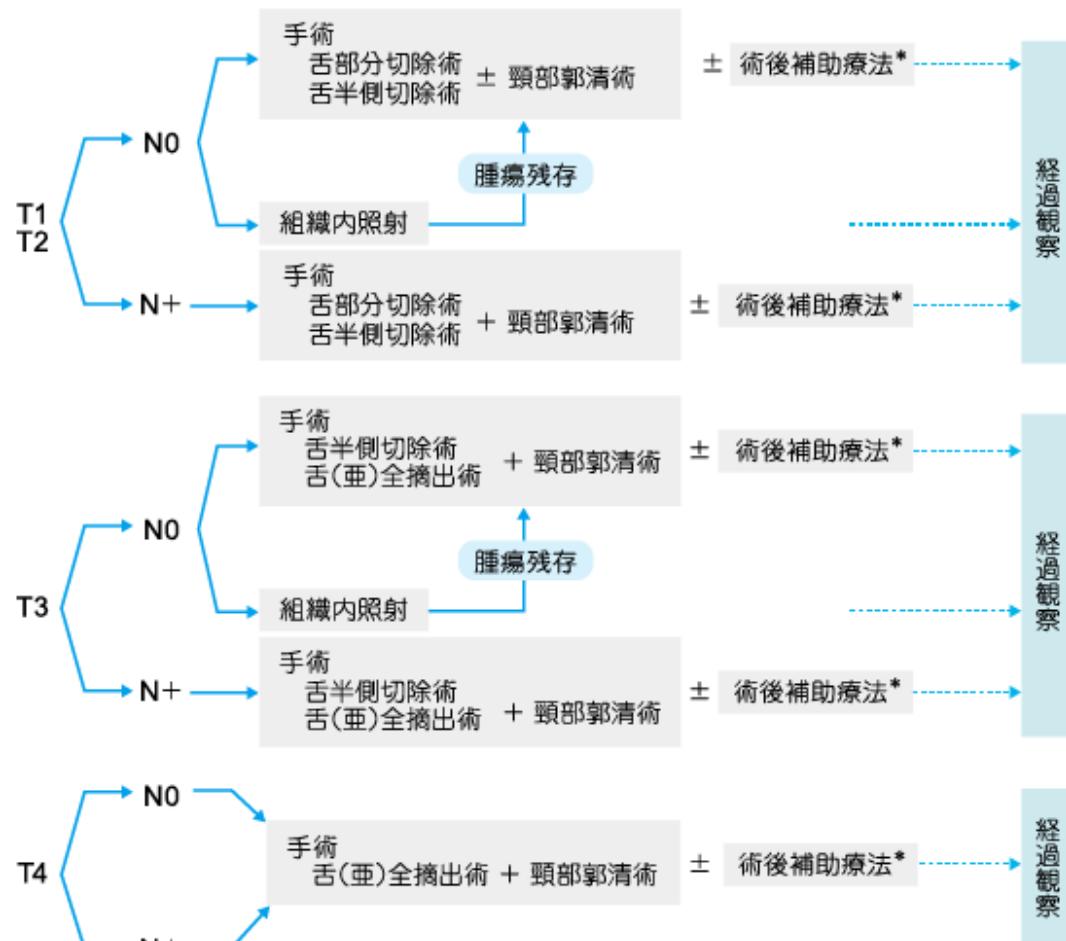
病理組織



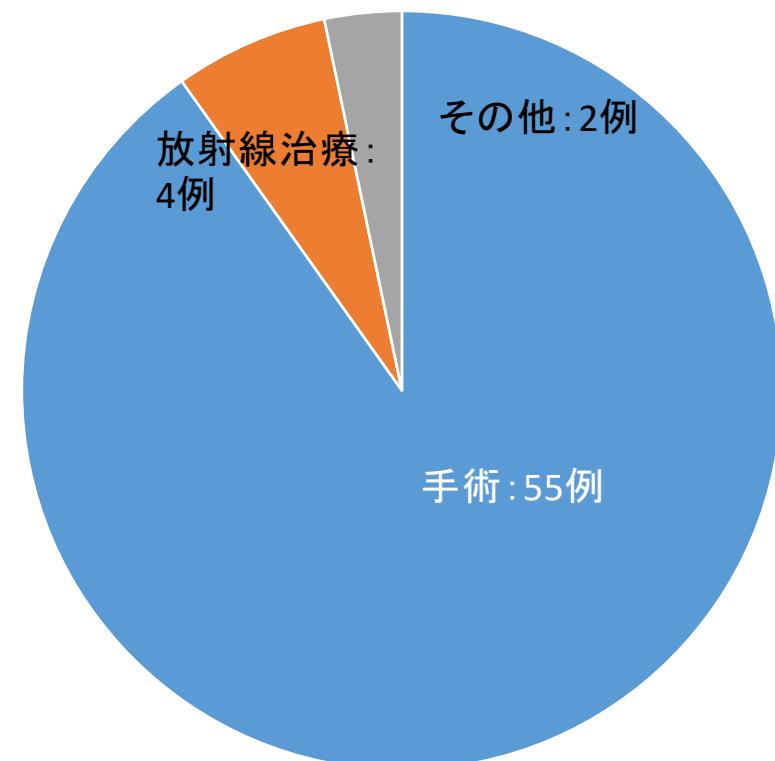
- ・ 3分の2がIII期、IV期の進行例。
- ・ ほとんどが扁平上皮癌。

7. 治療

口腔癌(舌癌)治療指針

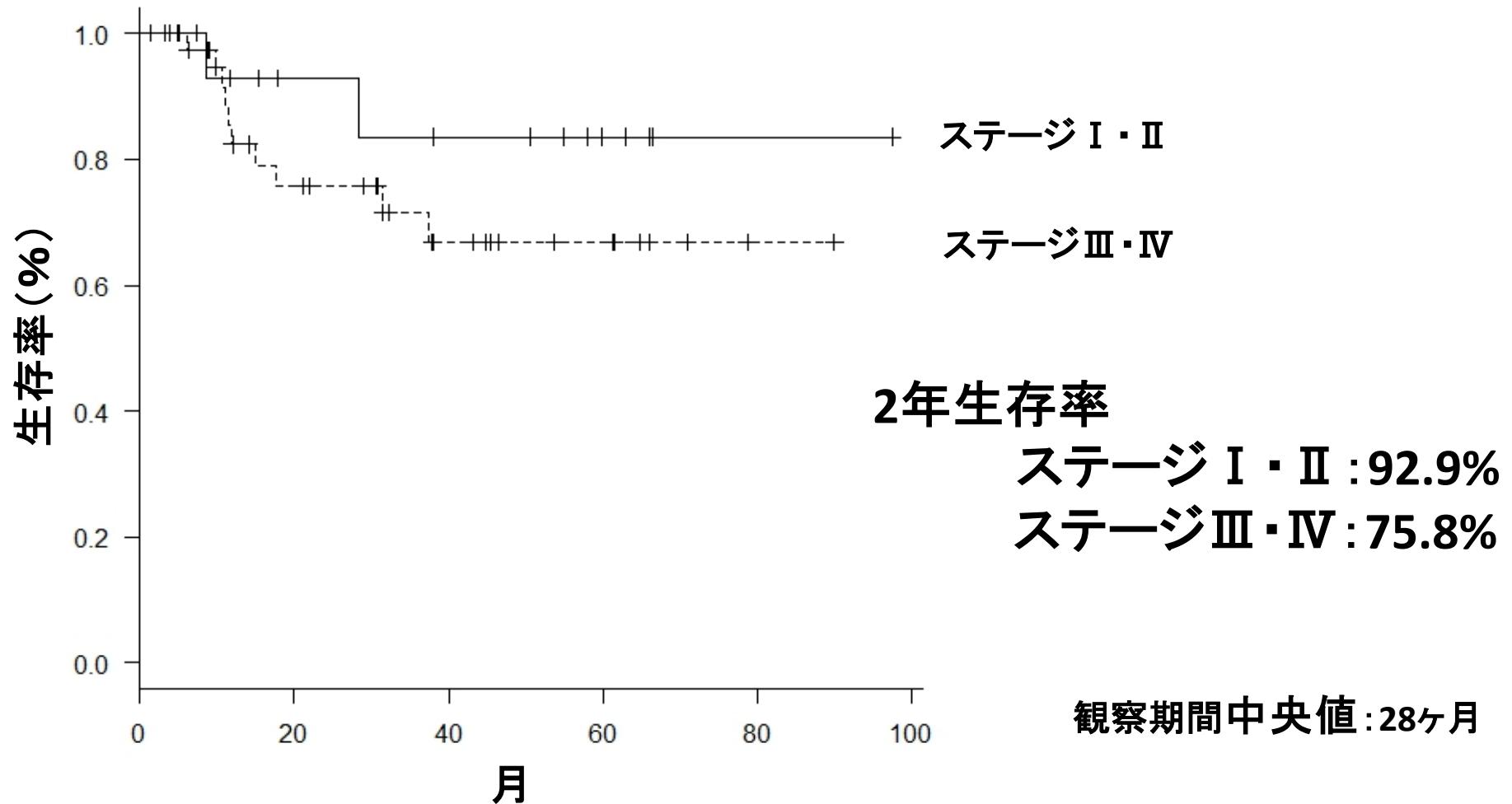


当科における治療



(頭頸部診療ガイドライン2018)

8. 治療成績



良性腫瘍



血管腫

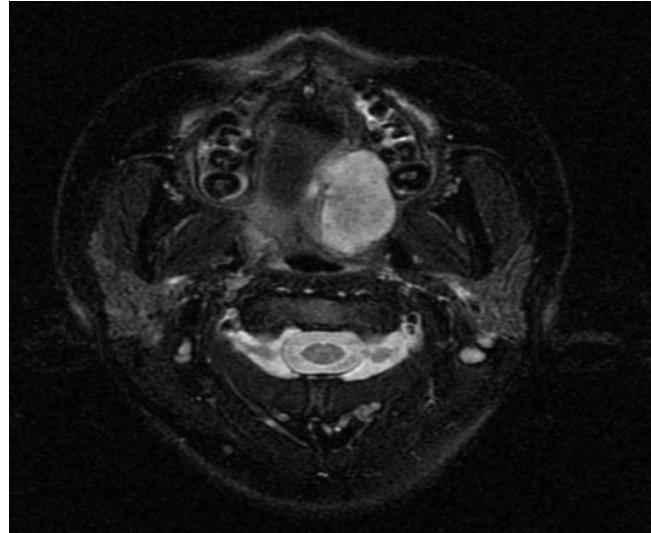
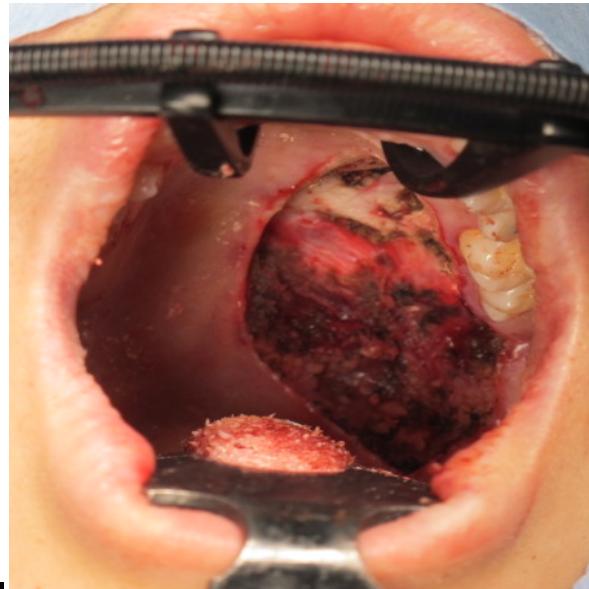
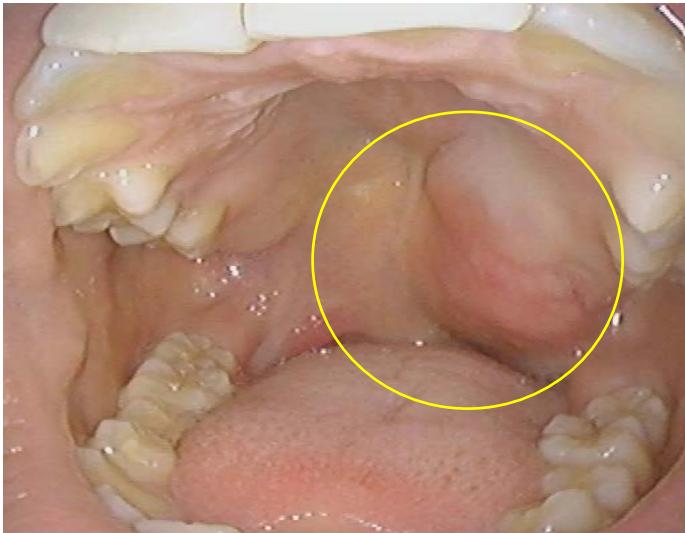


化膿性肉芽腫



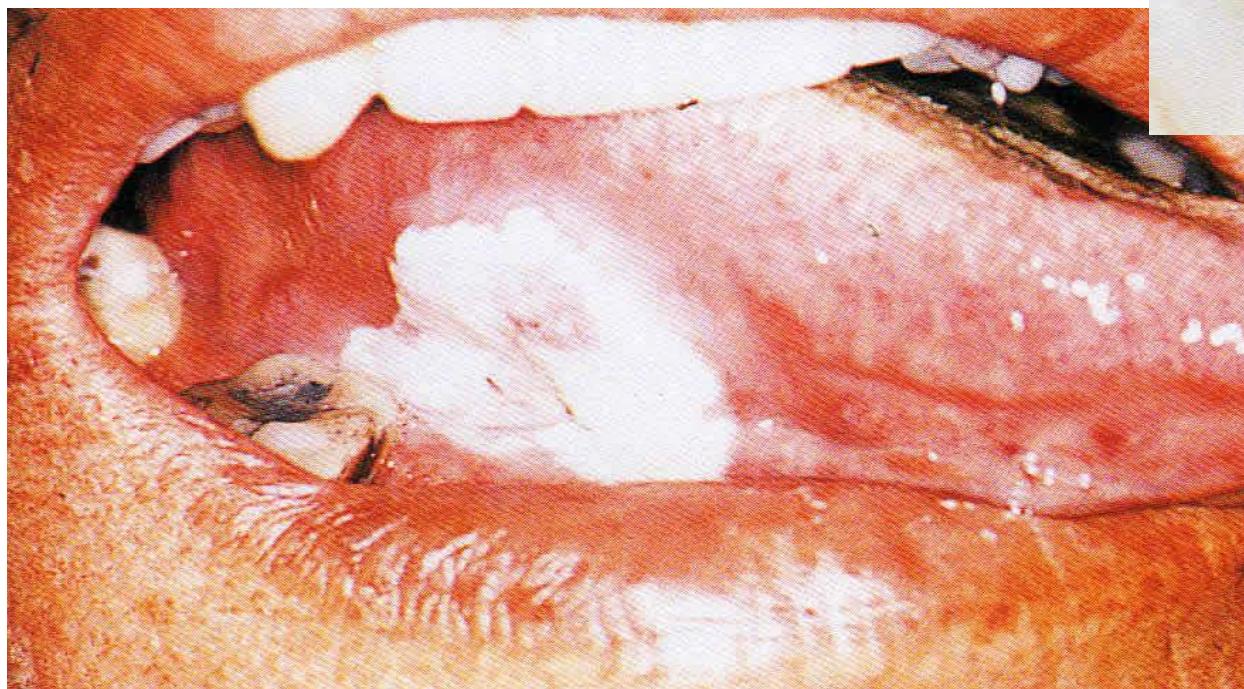
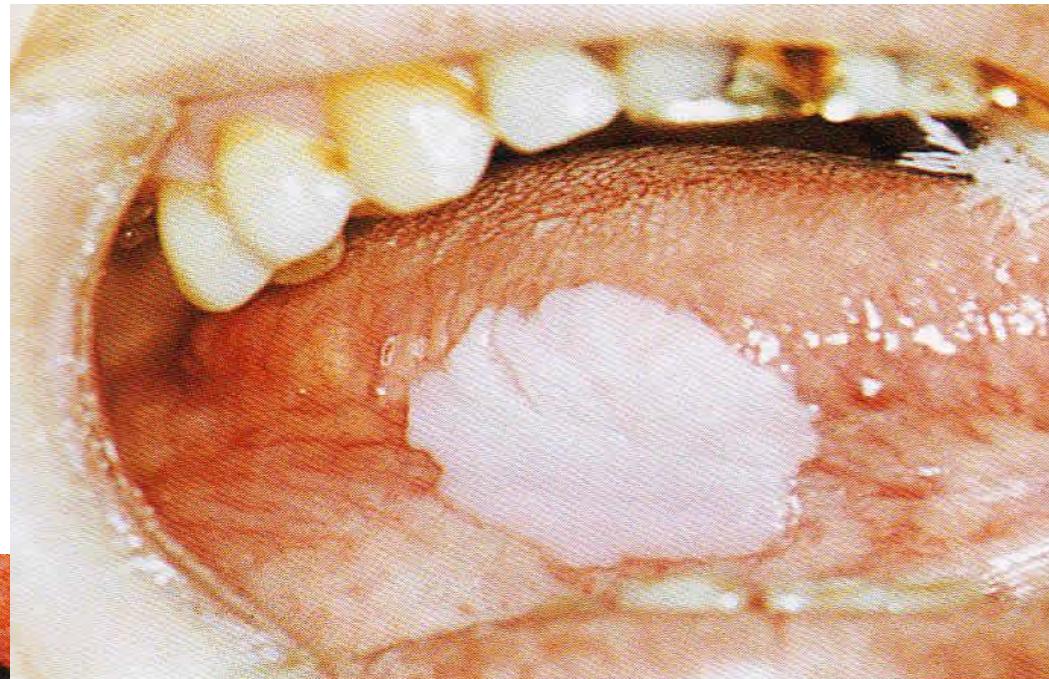
線維腫

口蓋多形腺腫



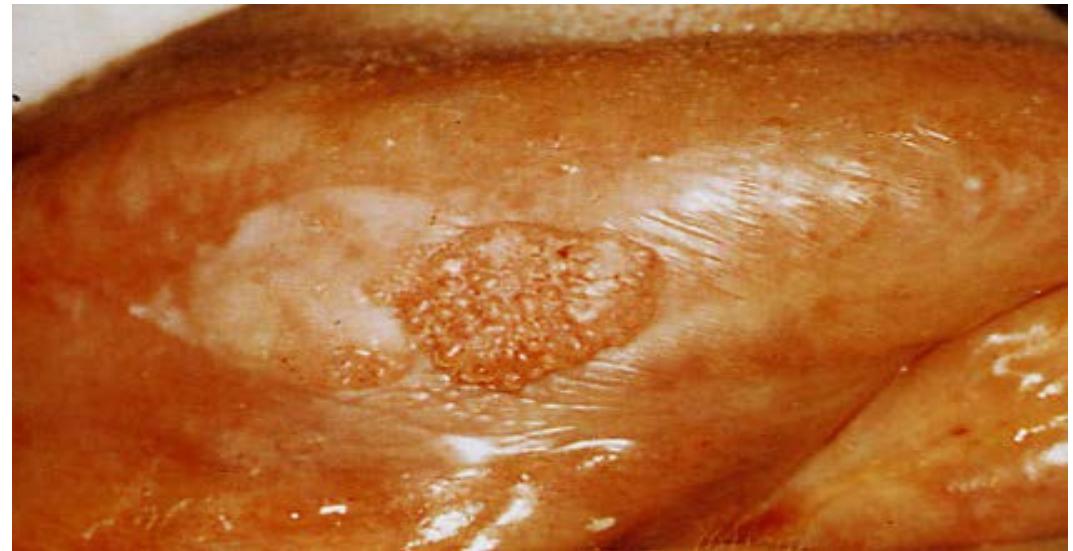
術後3か月

舌白板症

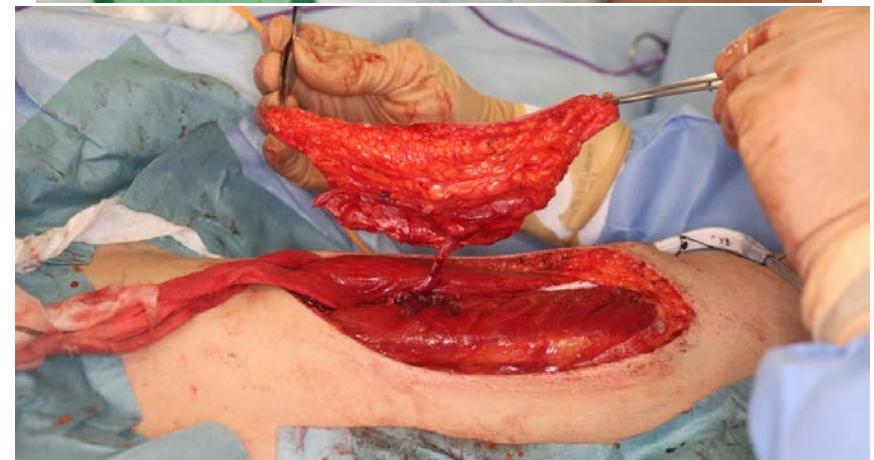


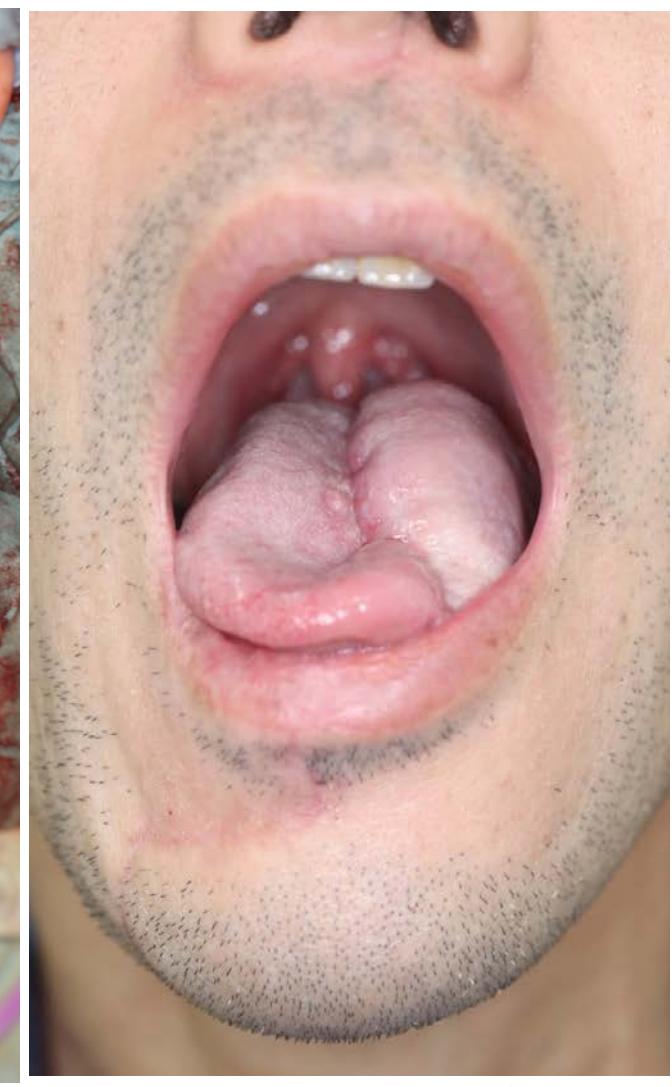
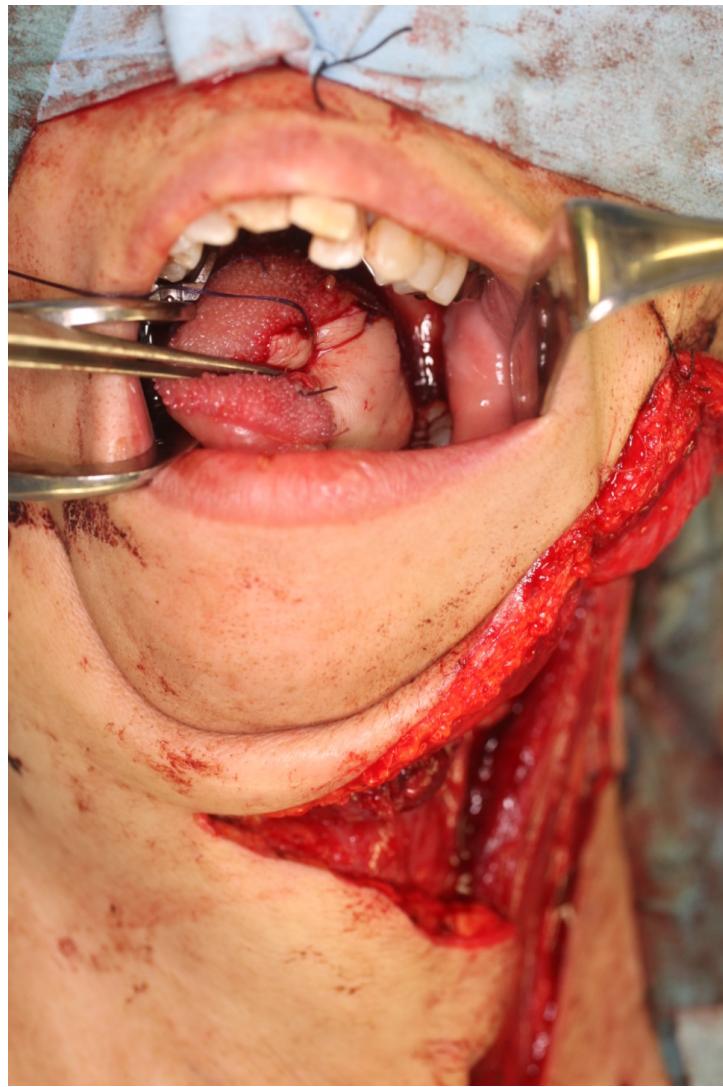
舌癌

- ・ 不良歯牙の慢性刺激が原因であることが多い。
⇒舌縁に生じ易い。
- ・ 頸部リンパ節転移を生じやすく、進行が早い。
⇒予防的頸部郭清術？
⇒頸部リンパ節転移の早期発見とその対応が生命予後に関わる。
- ・ 早期癌では部分切除、進行例では切除後に欠損部を遊離皮弁で再建する。
(前外側大腿皮弁、前腕皮弁、腹直筋皮弁など)



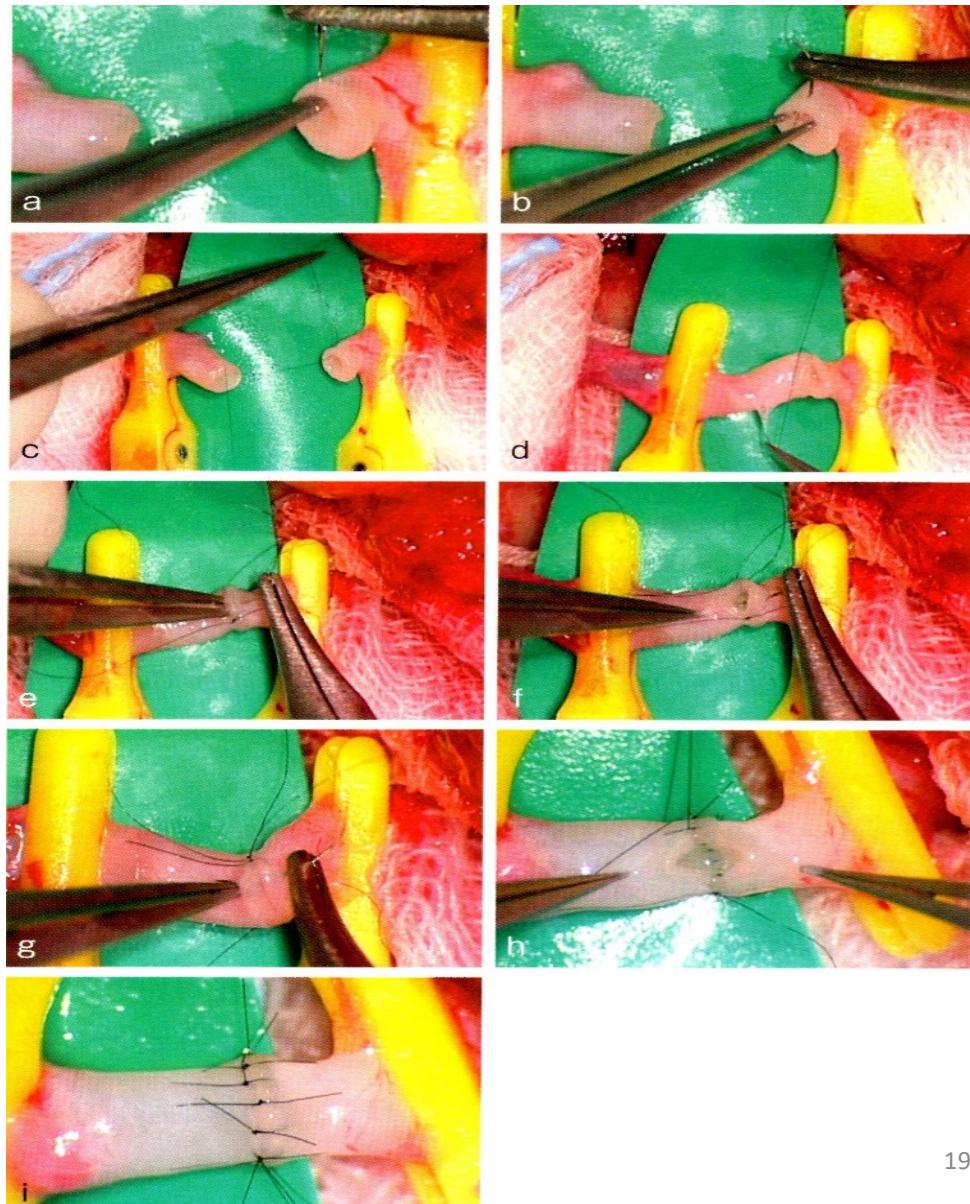
舌癌と前外側大腿皮弁



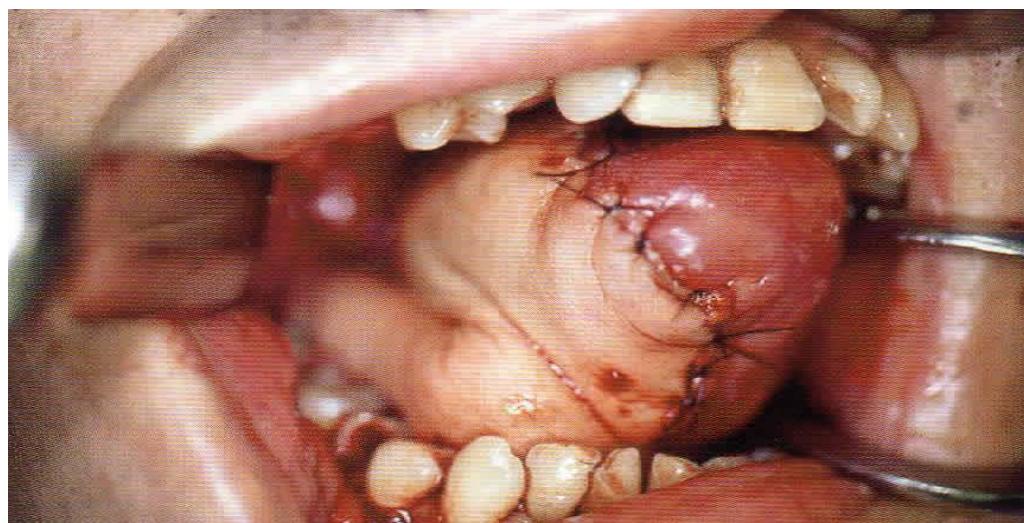
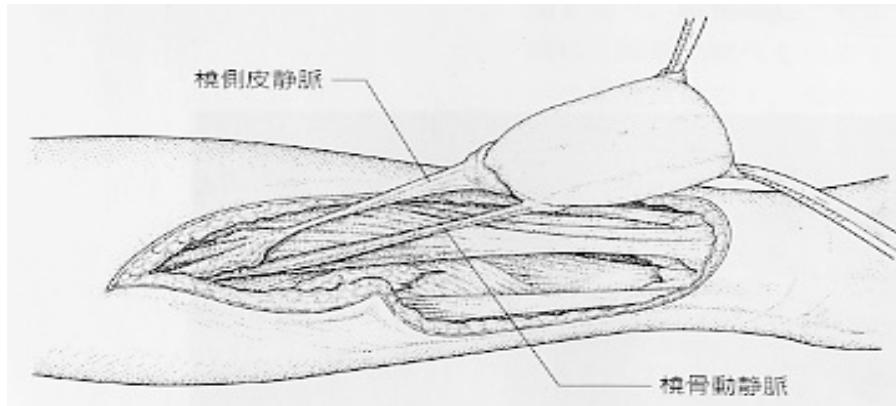


遊離皮弁における微小血管吻合

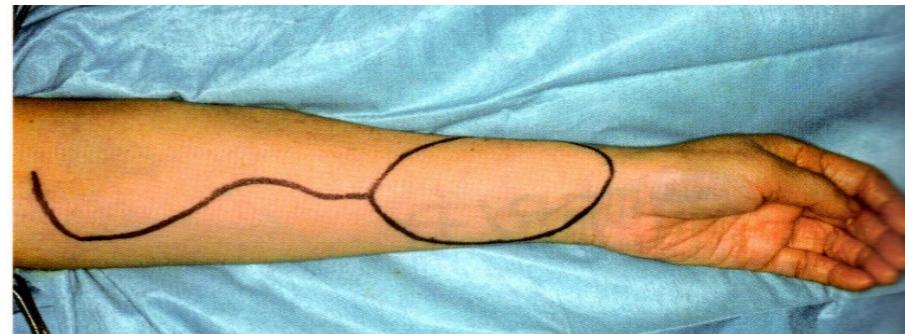
- 移植組織の栄養血管と移植床の外径1-2mm以下の動脈・静脈をそれぞれ手術用顕微鏡下に9-0、10-0ナイロン糸で吻合し血行を再開させる。



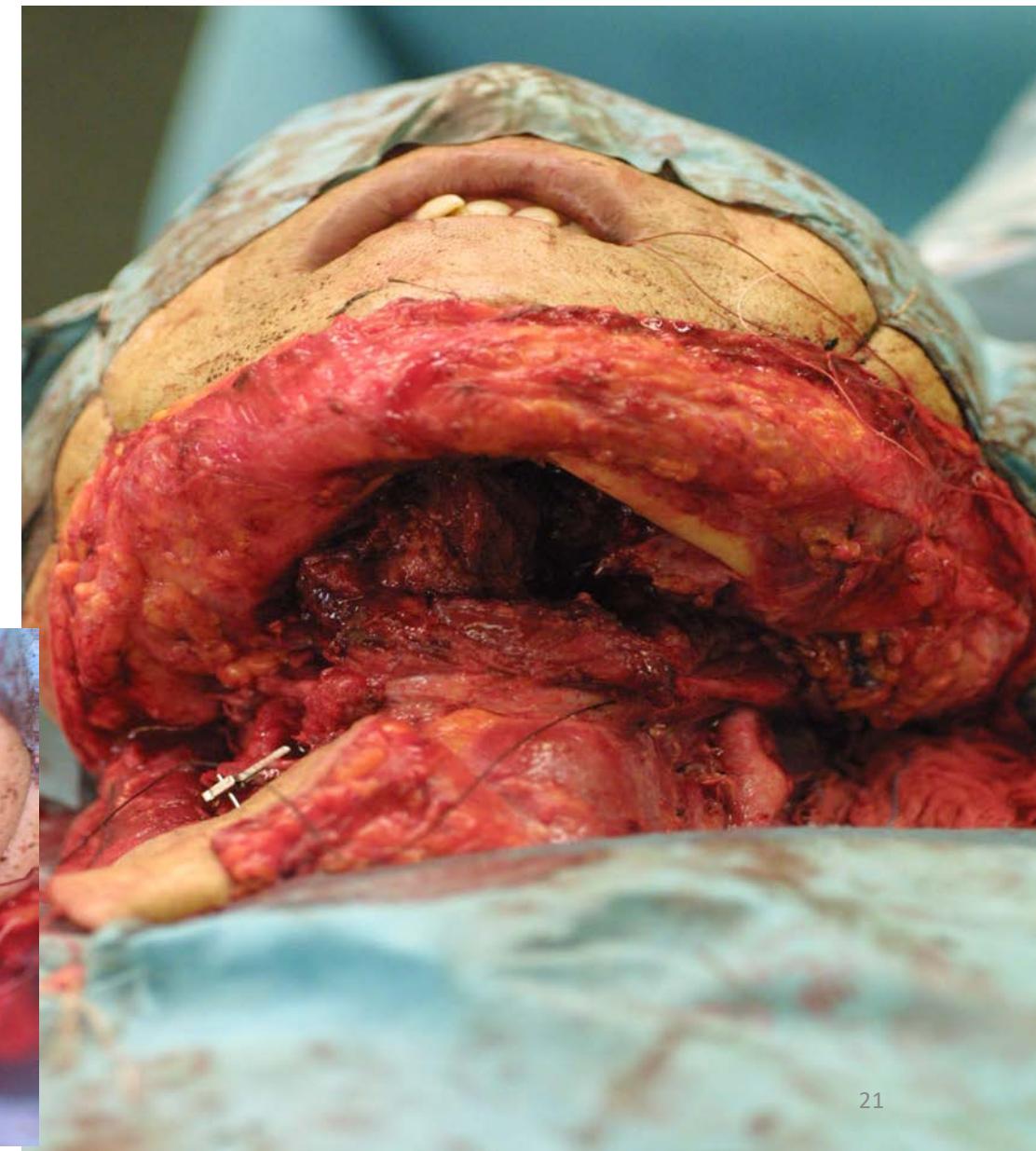
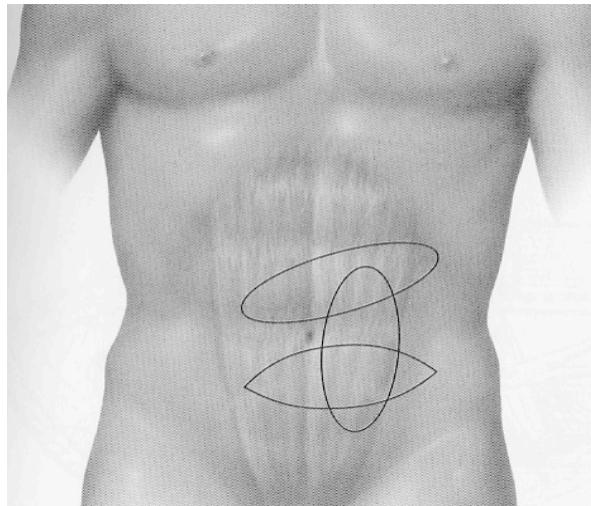
舌癌と前腕皮弁

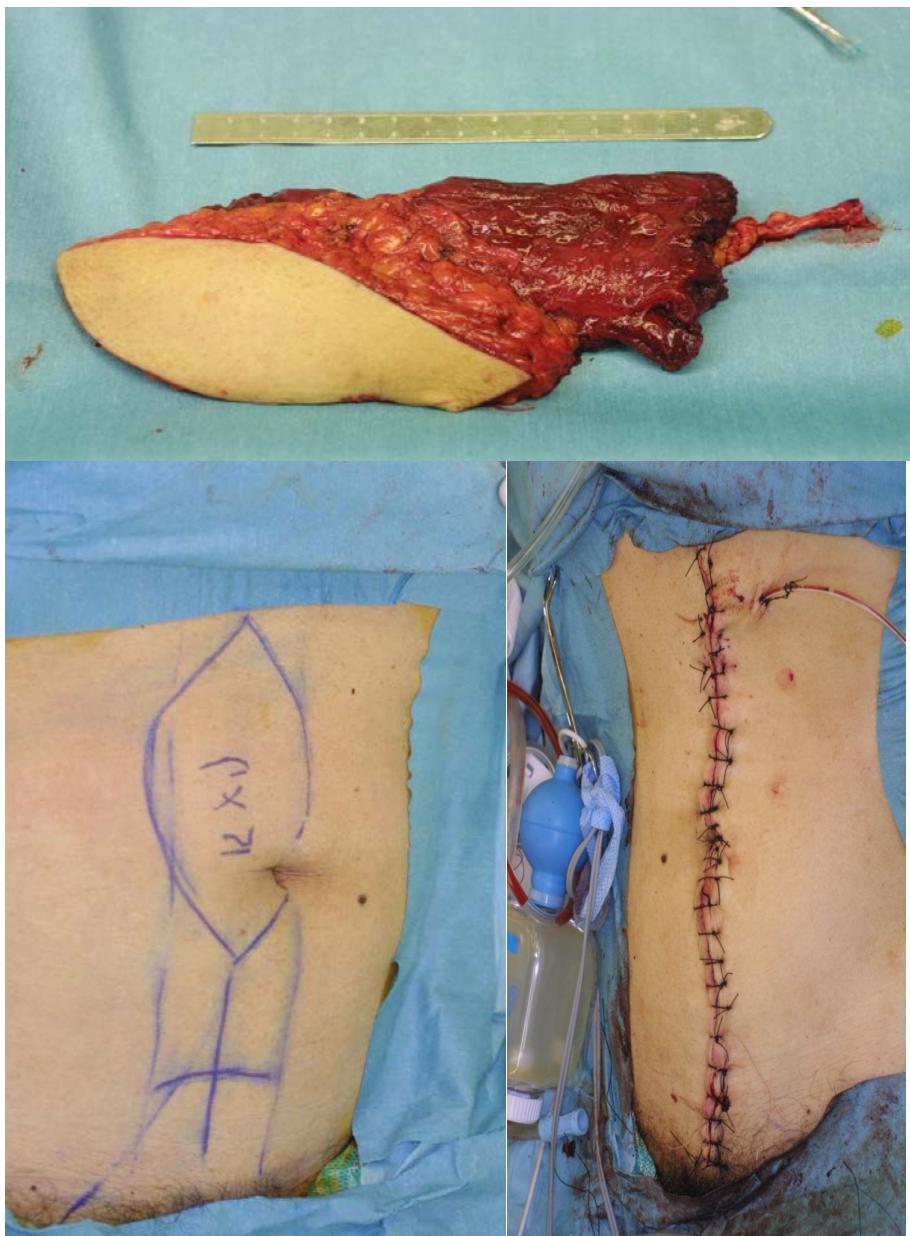


舌半切後の再建

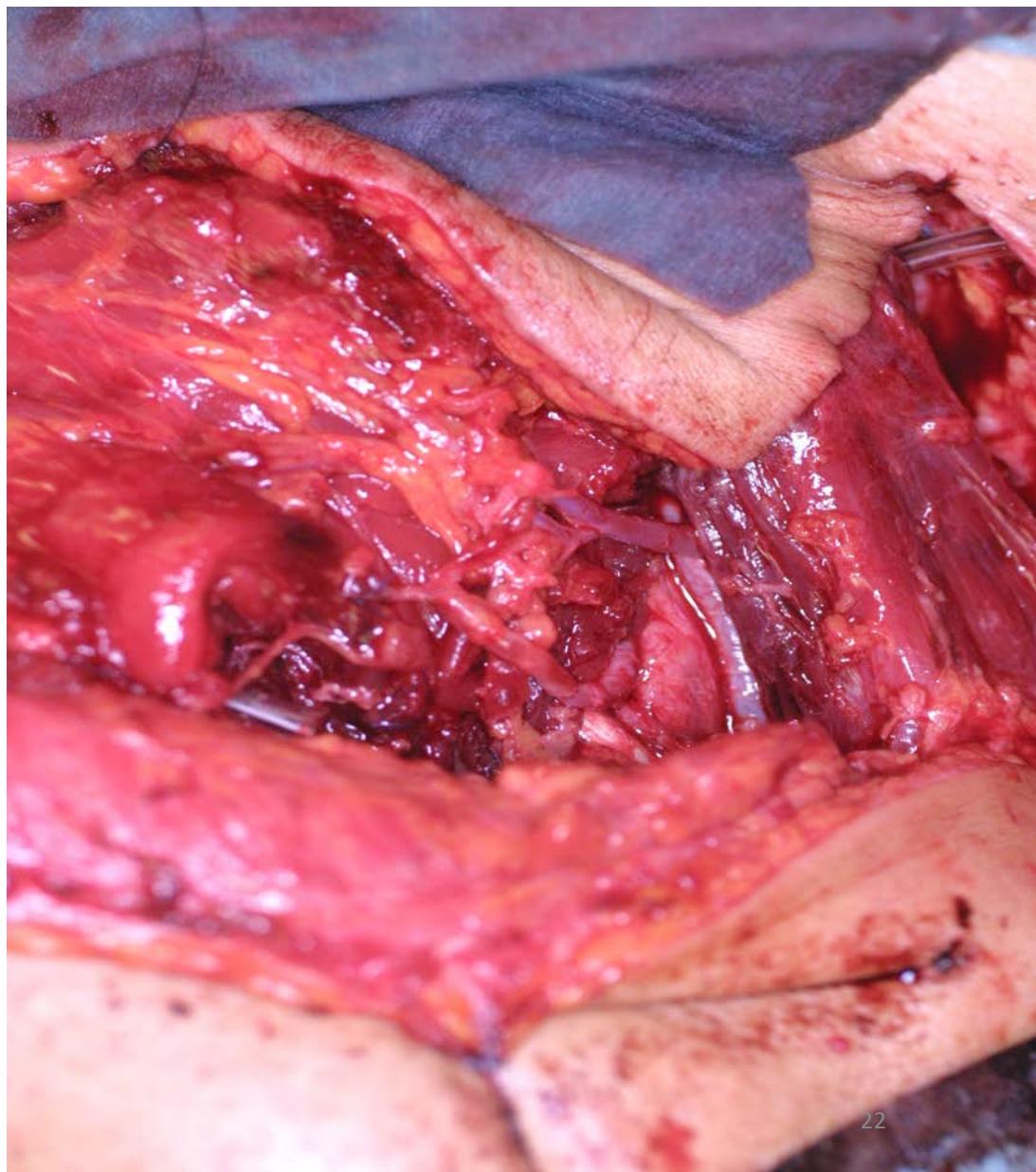


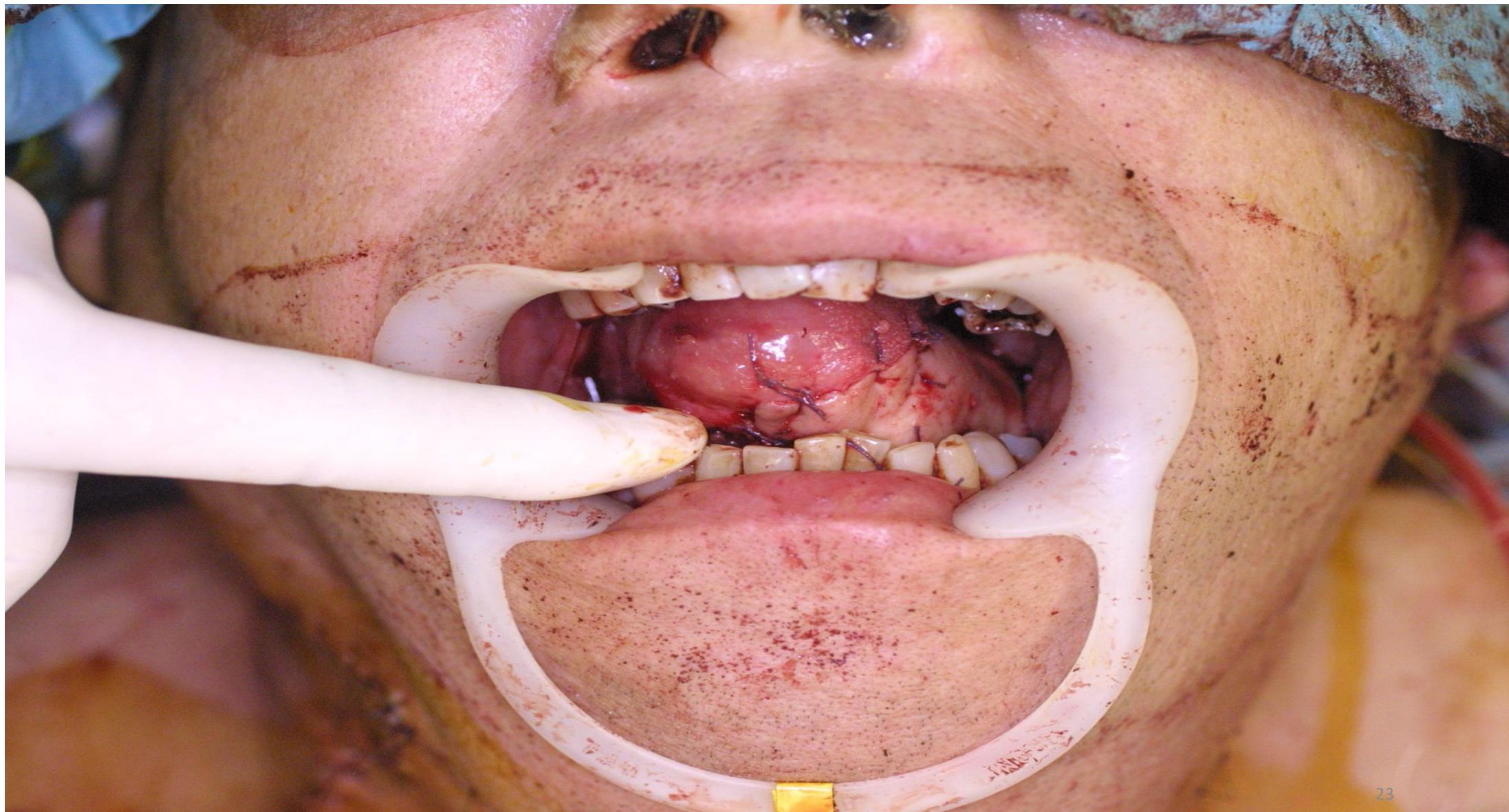
口腔底癌と腹直筋皮弁



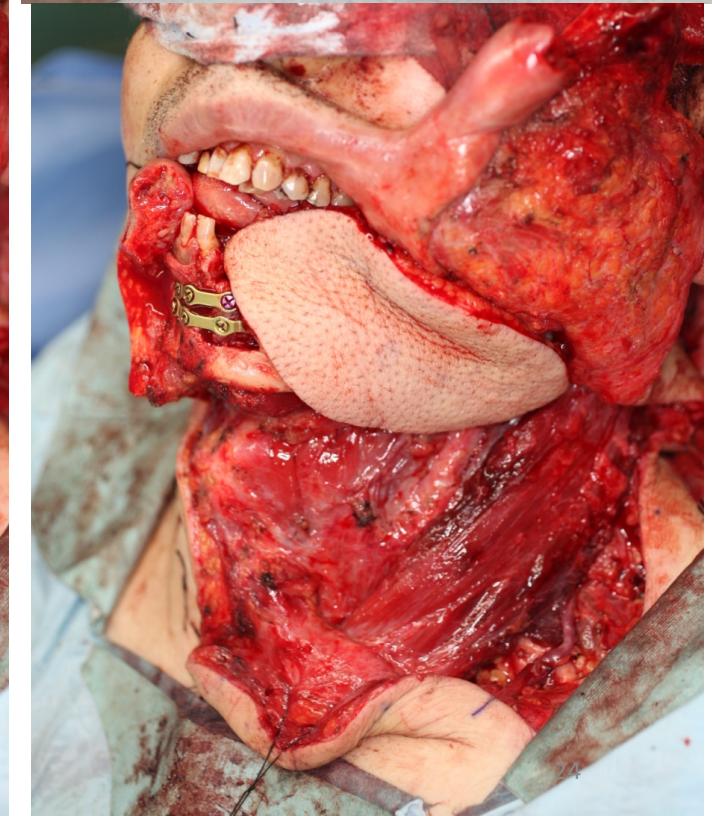
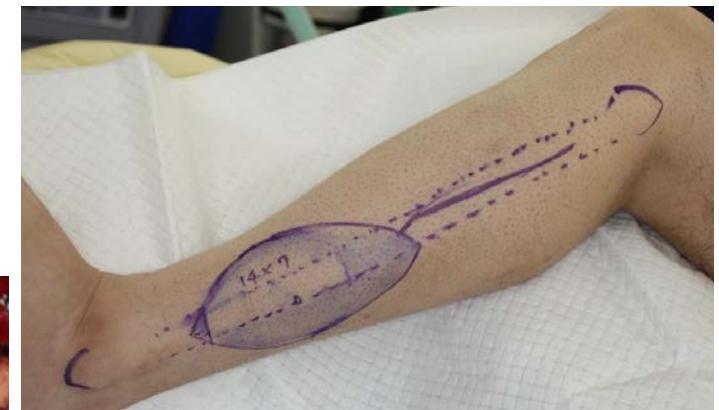
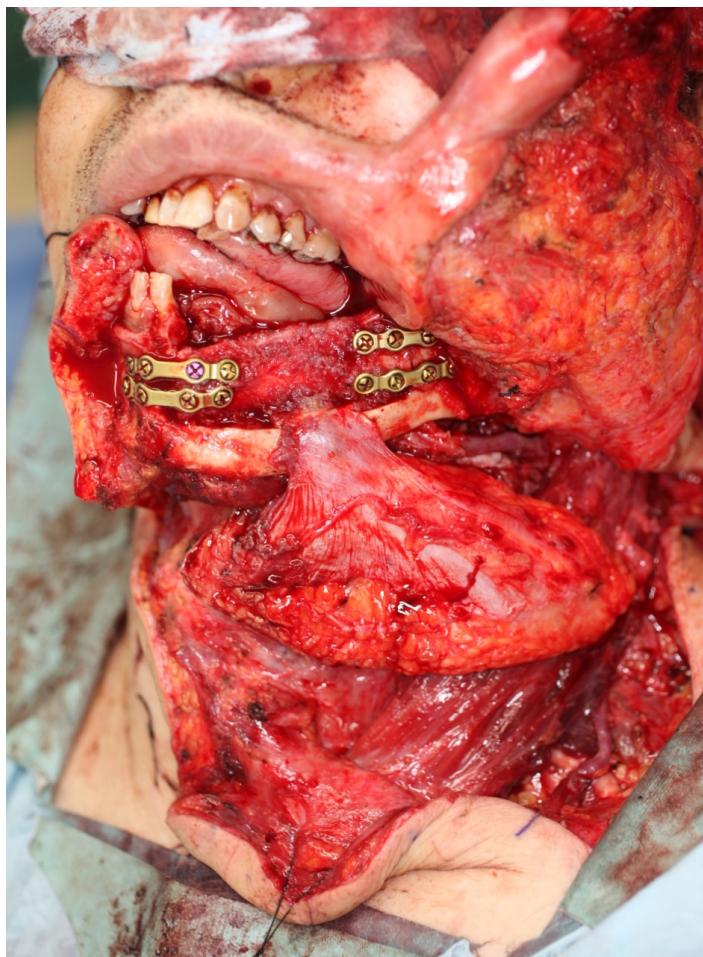
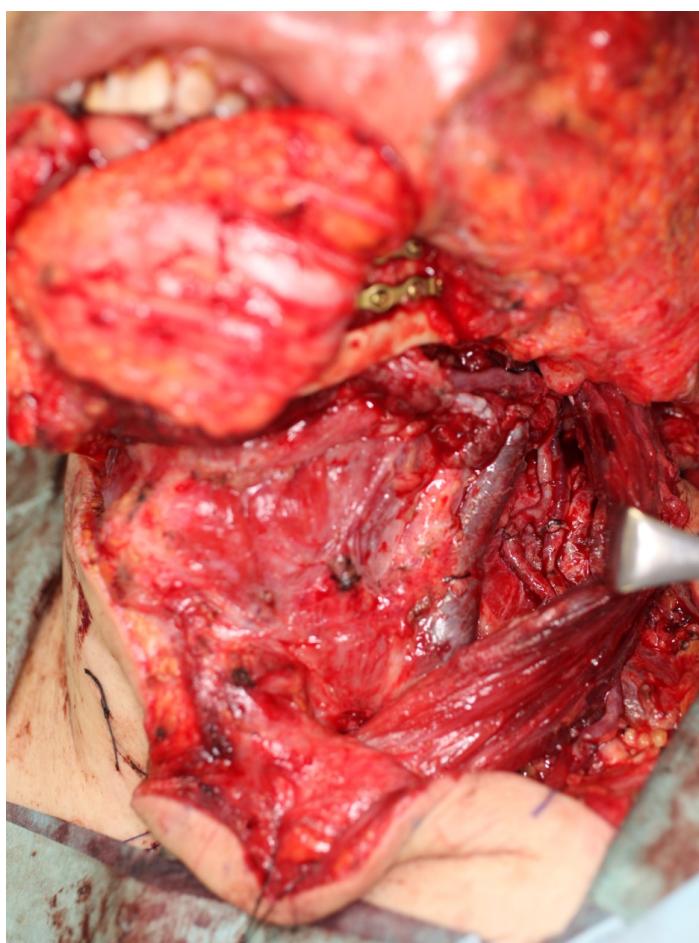


頭側





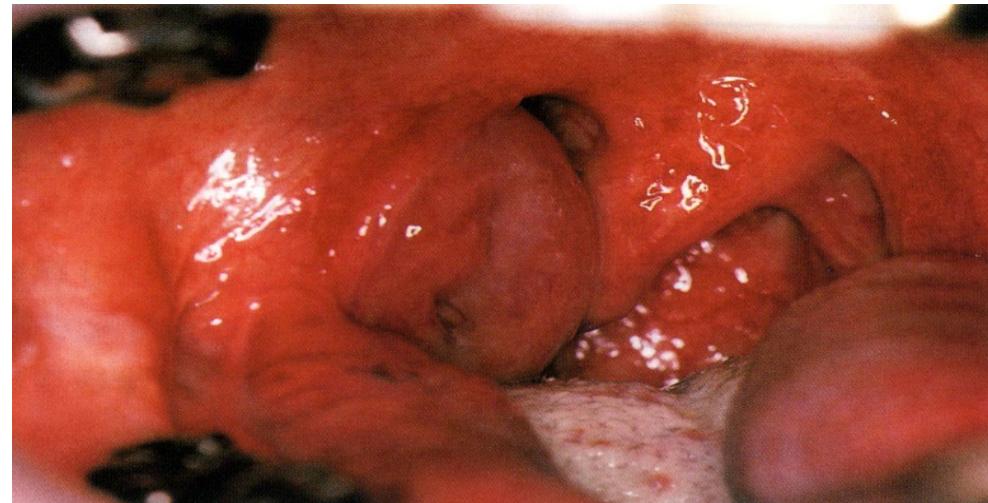
腓骨皮弁(下顎骨切除に対して)



中咽頭癌

- 扁桃、ワルダイエル扁桃輪
→悪性リンパ腫
- 扁平上皮癌は喫煙、飲酒が関与
- Human papilloma virus が関与した中咽頭癌が増加している。
- 治療:扁平上皮癌は手術・放射線療法・化学療法を組み合わせる。
* Human papilloma virus 陽性例は化学放射線療法の感受性が高い。

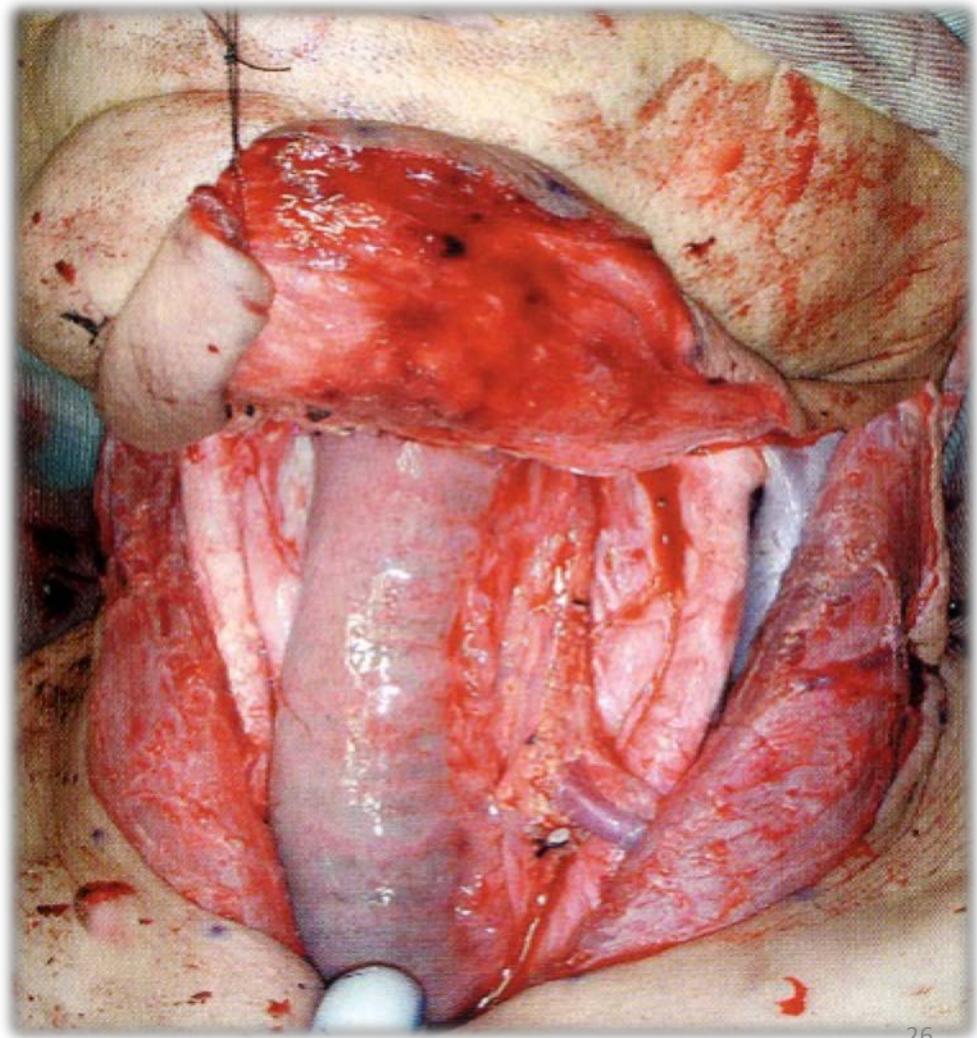
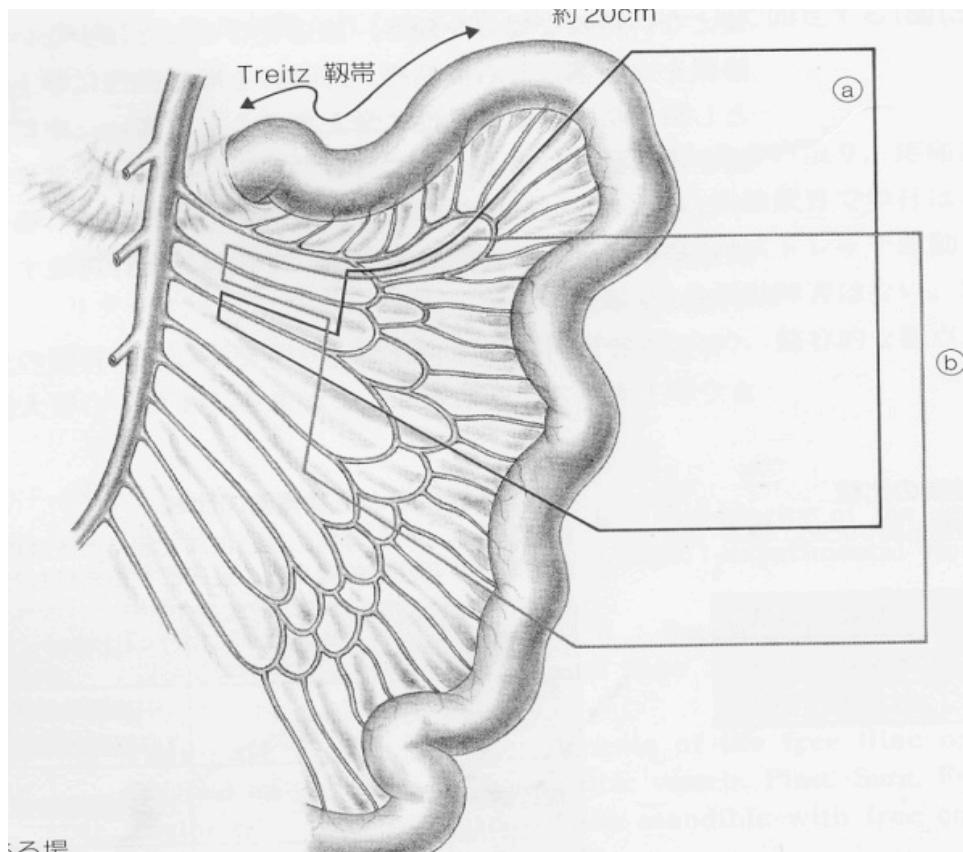
(右)扁桃悪性リンパ腫



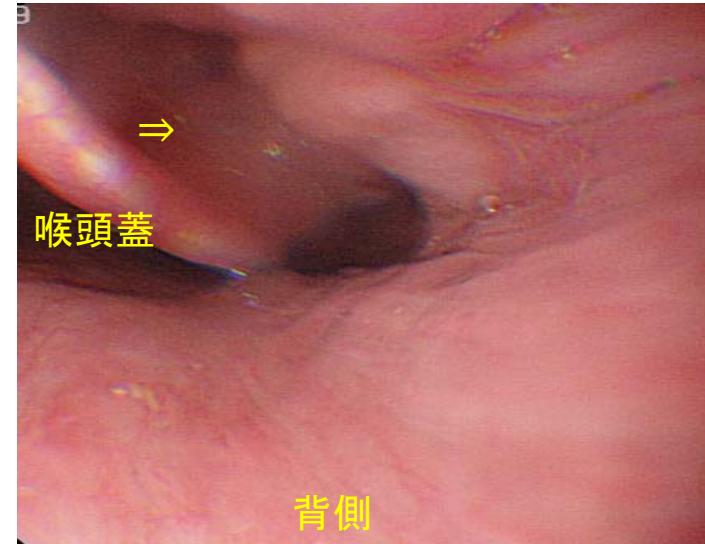
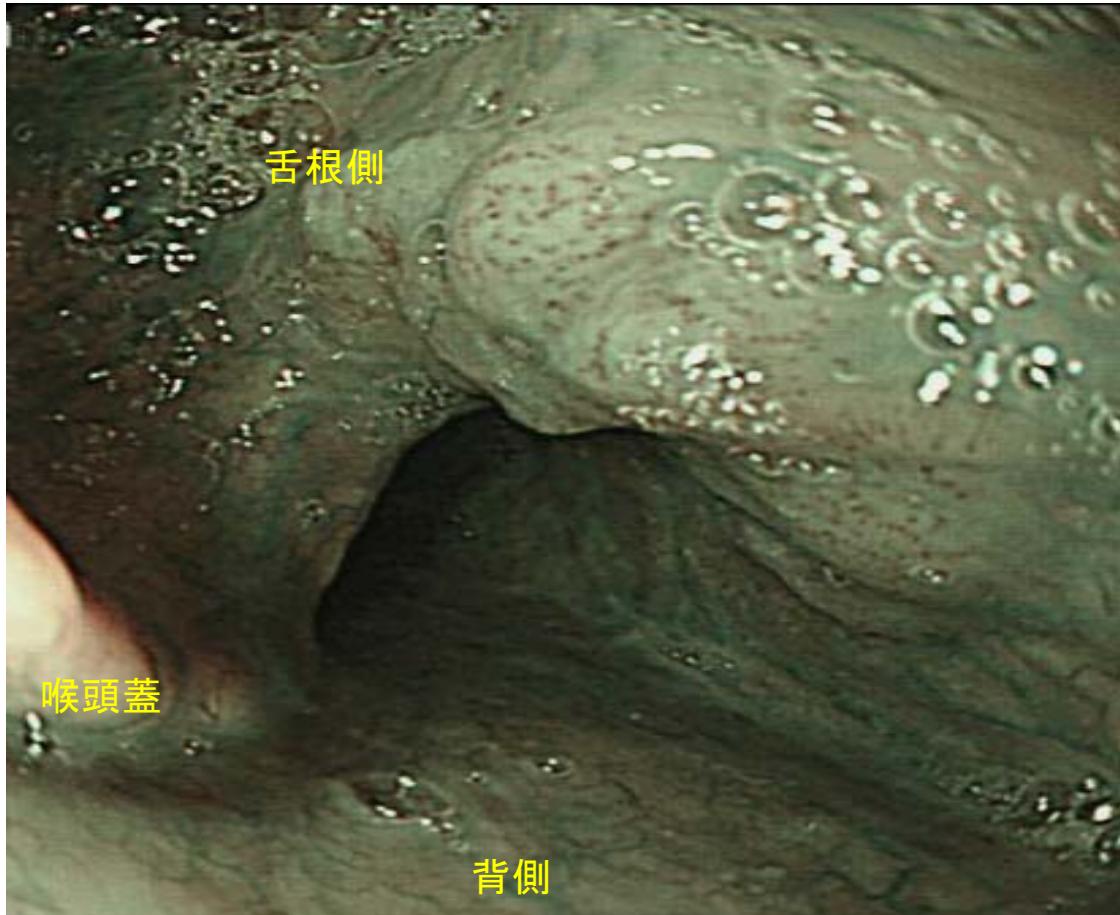
(左)扁桃扁平上皮癌



下咽頭癌に対する遊離空腸再建術



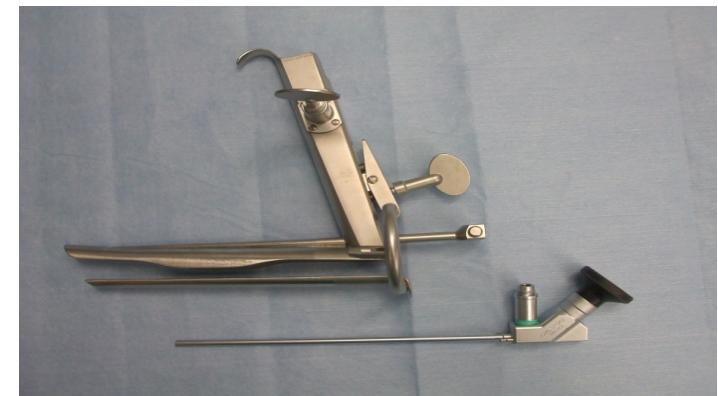
早期表在癌の発見とその対応：中咽頭前壁癌



Transoral videolaryngoscopic surgery (TOVS)



Weerda式拡張型ビデオ喉頭鏡(上)と従来のWeerda式拡張型喉頭鏡(下)



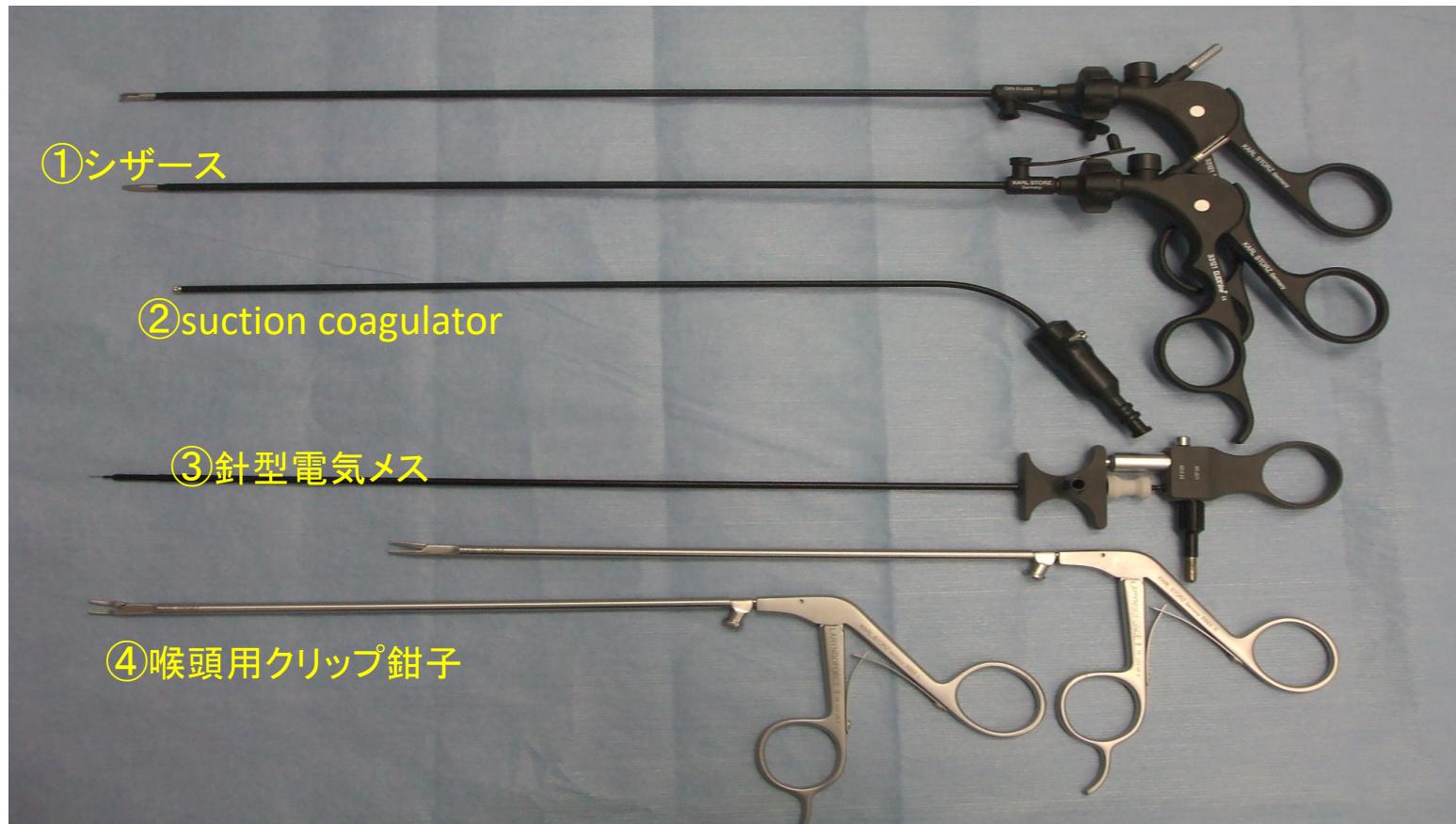
喉頭内視鏡が接続でき、広い視野が確保可能となった。

手術の実際



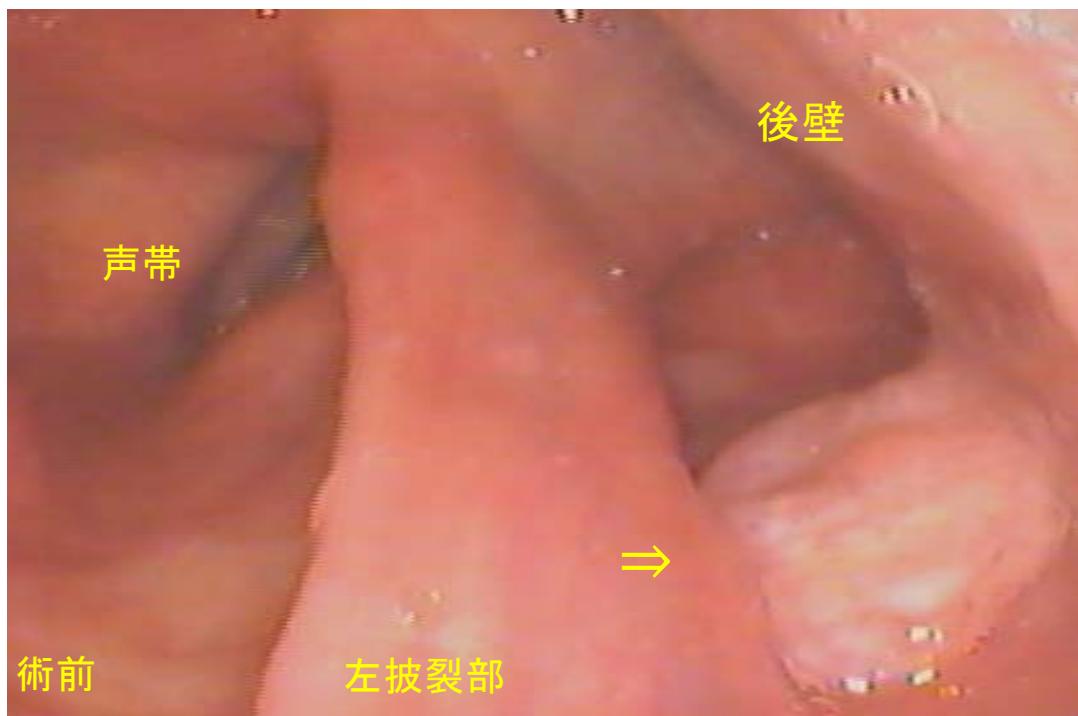
喉頭鏡カメラモニター(左)、手術室モニター(正面)、NBI 内視鏡(右)

手術器具

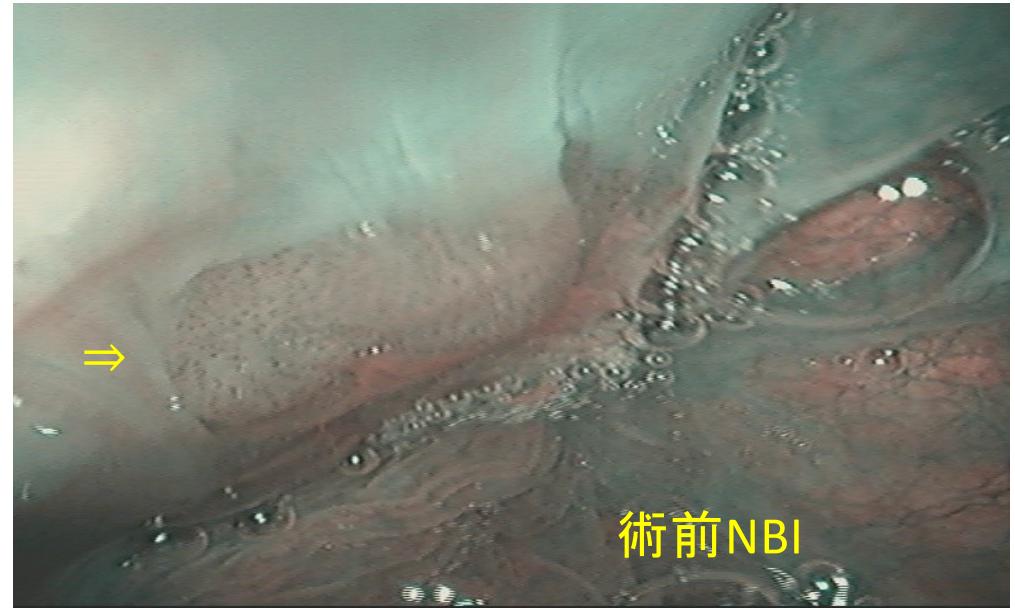
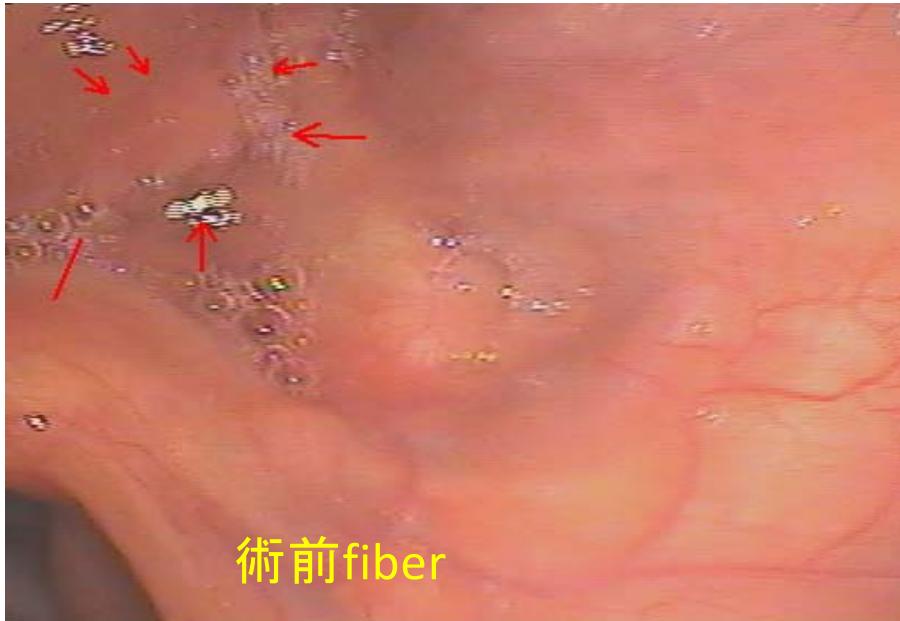


従来の喉頭マイクロ手術用のcold instrumentに加え、新たに止血操作に重点を置いた手術器具を準備

左下咽頭癌



下咽頭後壁癌



頭頸部癌診療の進歩

- ・遊離皮弁を利用した再建手術の発展
- ・NBI 内視鏡による早期表在癌診断の進歩
- ・低侵襲な内視鏡下経口的腫瘍切除術の導入

Take home messages （口腔癌診療のポイント）

- ・迅速な診断と対応が望まれる。
- ・適切な一次治療が重要。
- ・頸部リンパ節転移の早期発見と対応が生命予後に関わる。

（耳鼻咽喉科からみた滋賀県における口腔癌診療へのお願い）